

イベントの場を借りてエージングも済ませ、いよいよ邪道スピーカーを我が家に迎えることになった。実際に我が家のシステムに加えた時に果たしてどのような結果が出るのか。この手の音に理解があり、オーディオ仲間でもある、田中伊佐資氏、キヨトマモル氏、齋藤圭吾氏、そして製作した岸邦明氏を我が家に招き、「邪道スピーカー音聴き会」と銘打った飲み会が2019年末に開催された。

ついに吉野家に収まった邪道スピーカー。いい感じにびったり収まった

吉野 皆さん、多忙を極める中、本日はお集まりいただきありがとうございます。連載「俺流スピーカー! 邪道を往く」で約1年間かけて作ったスピーカーがついに完成し我が家に収まりました。この連載では「俺が好きな音」をひたすら追求したわけですが、やっぱり気になるので、音にうるさい皆さんにも聴いていただき、どう感じるかをざくばらんに語っていただけだと思います。手加減抜きでお願いします。率直な意見よろしく願います!

齋藤 かつけえな。誌面で見てた時は正直イマイチだと思ってたけど、実物はいいね。無垢材の質感がいかすわ。ステレオ誌もつとカラーページがあるところの良さが伝わるのにな。ところで何でツイーターが横向いてるの?

吉野 見た目だけの問題ですね。これ縦に置いたら普通のスピーカーになっちゃうでしょ。普通のは作りたくなかったんで。

齋藤 ただのひねくれ者(笑)。音的に大丈夫なのかい。

田中 しかし、さすが岸さん。やっぱり良いもの作るわ。まずは吉野さんのレコード聴かせてよ。

吉野 では一番バッテリーは、B級ソウ

そもそもそういうコンセプトだよ。だったらいいんじゃない?

田中 あーあ、なんかつまらないな。今日はボロ糞にダメ出しする気だったのに。特にツッコミどころないわ。

齋藤 まあどうせ、一番良くなるような盤を流したんでしょ? ちょっとこれかけてみてよ。

「フリートウッド・マック」80年代産業ロック時代

吉野 問題なく聴けてますが、多分、もっといろんな複雑な音が入ってるんだろなって感じですね。

齋藤 俺もウィンテージスピーカー使ってるけど、やっぱりこの辺の音源は厳しいのよ。

田中 やっぱり少し物足りない感じはあるね。ただ、全然無理ってことはない。ちゃんと曲としての旨味は引き出せてるんじゃない。ダメ押しにこれかけてみてよ。たぶん無理だから(笑)。

「ティアーズ・フォー・フィアーズ」80年代UKニュー・ウェイブ

吉野 なるほど、意地悪なほどこちらもド派手な音ですね。邪道スピーカーが素朴な音なので、ミスマッチですね。**田中** ほんとはこれは、ずんずんと迫

りくるような低音が入ってるんだよ。そうだったオーディオ的快樂の世界観は出ないね。

齋藤 50年代のユニットには限界がある。

キヨト コーン紙を重くして、マルチウェイにネットワーク、アンプがパワーを必要とするような、現代のスピーカーの音とは、真逆だからね。ウィンテージスピーカーは高能率でポーンとストレスなく音が鳴る感じ。このどちらを取るかだね。うちはもちろんフルレンジ一発派だけど。

吉野 そもそも、この辺の音楽はそんなに聴かないからいいんです。最低限鳴ってくれば、前に使っていた70年代のスピーカーは、その辺が得意だったけど、逆にウッドベースとかが、鈍くて糞詰まりな感じで出なかった。

田中 じゃこれ聴いてみようか。

「チャールズ・タイラー」ESPオリジン 60年代フリージャズ

吉野 おーこれは名盤だ。オリジナルすか? ヤバいですね。ウッドベース出た。

田中 ベース2人に、チェロ、アルトサックスという変態的編成だけど、いい感じにグルーヴしてるね。

連載

新感覚オーディオクラフト

俺流スピーカー!

邪道を往く

最終回 邪道スピーカーをマニア達が斬る!

アクロージュファニチャー 岸邦明×ステレオ編集部 吉野

アクロージュファニチャー <http://www.acroge-furniture.com/>

今回集まったのは、田中伊佐資氏(ライター)、キヨトマモル氏(ウィンテージ系オーディオショップ店長)、齋藤圭吾氏(写真家)、岸邦明氏(アクロージュファニチャー)、そして本誌吉野の計5名

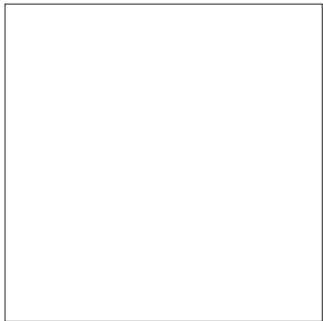
ル「ジョニー・アダムス」いきます!**田中** また臭そうなのが来たね。

「ジョニー・アダムス」70年ニューオーリンズB級ソウル

齋藤 おー。このサイズからは想像できない鳴りっぷり。低音もガツリ出でていいね。すげえ。いいじゃん。何よりリビングに置いていても家族が嫌がらなそうな音だね。

田中 いいねえ。このクセありまくりな音源にドンピシャで合ってるね。

キヨト 吉野さんの好きな音が出てる。



フリートウッド・マック／Everywhere (Warner Bros.1987年)

ジョニー・アダムス／heart&soul (SSS 1970年)

チャールズ・タイラー／Eastern Man Alone (ESP Disk 1967年)

ティアーズ・フォー・フィアーズ／The Seeds Of Love (fontana 1989年)

吉野 アルトサックスの感じもホーンツイーターが雰囲気だしますね。フリージャズのムサ苦しい感じが思いっきり出て最高です。**田中** なんか最後まで聴いちやうんだよね、このアルバム。**キヨト** やっぱり吉野君の好きな音なんだよ、このスピーカー。試しにこれかけてみてよ。

「若き日のピアソラ」アルゼンチンタンゴモノ盤

キヨト やっぱりヴァイオリンは厳しいね。ヴァイオリンの音じゃないよ、これは。使ってるカートリッジは何?**吉野** GEバリレラです!**齋藤** それだ。そんなアメ車みたいな音じゃ無理無理。**田中** ピカリングのモノカートリッジ持ってきたから、そっちで聴いてみよう。

・カートリッジをピカリングに変更
キヨト こっちの方が、ヴァイオリン

卓上には各々持参してきた、コンデンサやカートリッジ、酒のつまみとカオス状態

アストル・ピアソラ／Adios Nonino (Trova 1969年)

田中氏持参、ピカリングのMONOカートリッジに交換して試聴

らしい音になったね。

齋藤 全体的に音がふくよかでいいねえ。

岸 カートリッジで全然、変わりますね。驚きです。そして無垢のスピーカーとアコースティック楽器の相性はやっぱりいいですね。楽器の響きが美しい。

キョト カートリッジでこれだけ音が変わるということは、感度がいいスピーカーということですよ。ダメなスピーカーはレスポンスが悪くて鈍いからね。

吉野 繊細で上品かつ力強い。これ欲しい。悔しいのでビーチ・ボーイズはどうだ！

【ビーチ・ボーイズセカンド】
モノラルオリジ

吉野 このさざ波のような、寄せては返すグルーヴ。何度聴いてもいい曲だ。バリレラもアメリカンサウンドでいいんだけど、ピカリングだとさらにウェルベツトな世界観に包まれる。

キョト ビーチ・ボーイズのグルーヴは難しいんですよ。どんなバンドがコピーしても絶対にこのフィーリングは出ない。

田中 不覚にもウツトリしてしまった。

ビーチ・ボーイズやばいね。これは買わねば。ところで岸さん。ぶっちゃけてこのスピーカー、販売するとしたらいくらですか？

岸 今までの実験を含めると制作工程は200時間以上費やしてますが、単純に同じものを作ったらペアで50万ですね。ユニット別で。

田中 え、破格じゃないですか！オールハンドメイドのこれだけ立派な仕上げで50万ですか。ペアでしょ？

齋藤 うん、安いよ。これで50万なら。**キョト** この連載が始まってから、このユニットの値段が少し上がったよね。吉野さんは聴かないだろうけど、これかけてみてよ。日本のジミヘン。

【高橋竹山】
津軽三味線

キョト これもだめだね。なんか三味線の音、雰囲気じゃない。このステレオカートリッジは何？

吉野 シュアM44です！

田中 だったら、アメリカの高橋竹山じゃないと。

齋藤 ああ、本物のジミヘンのことね。**キョト** M44はいいカートリッジだけれど上が伸びないから、この手の繊細な音楽は難しいね。今年の春くらいに

キョト氏のショッブ、ヴァンテージ・ジョイン オリジナルMMカートリッジが春に発売予定。これは期待できる

ZZ TOP／ZZ Top's First Album (London 1971年)

吉野 濃厚さでは44に譲りますが、空気感とか細かい音は圧倒的ですね。これいくらかの予定ですか？ 買います。

齋藤 俺も買います。

キョト まだ決めてないけど、数種類販売する予定だから告知頼むよ。それとウチもそろそろ日本の音楽がしっかりと鳴るスピーカーを作りたいと思っている。日本人はやっぱり日本の音楽を聴かないとダメだ。

吉野 そうですね。ちょっとお口直しにこれ、聴いていいですか？

【ZZTOPファースト】
テキサス発、砂埃ブギー

田中 ZZTOPの1stってこんなにいいんだ…。セーので一発録りした感じがたまらないね。
齋藤 ギター
アンプの音だ（笑）。まさにそこで演奏してるみたいだ。ウケるわ。
吉野 でしょ。要するにこの音が出したか

ツイーターを外側にしたりと、セッティングにも余念がない齋藤氏

ったんですよ。これに尽きる。レスポールのクランチトーンがたまねえ！ところで、このスピーカーでまだやり残したことがあって。ツイーターにコンデンサを一発だけ入れてるんだけど、それを吟味したくてキョトさんにくつか用意してもらいました。

キョト 今日持ってきたのは、ドイツ、フランス、アメリカ、イギリスのヴァンテージです。

吉野 一人で作業するのは面倒なので、皆さん一緒をお願いします！

齋藤 仕方ねえなあ。でどのLPで聴いてく？

吉野 これどうですか？ ゲッツ&ジルベルトの『イパネ……』

以降、全員泥酔でグダグダな中、あーでもない、こーでもないというアホな話を交えながら夜更けまで試聴&実験が続いた。連載はこれにて終了だが、邪道スピーカーは今後もまだまだ調教していく予定だ。読者の皆様一年間お付き合いただきありがとうございます。今、自分が理想とする音に近づけた気がします。また何かの折で報告させていただきます。オーダーメイドで自作スピーカー、サイコー！【吉野】

売る予定のうちのMMカートリッジの試作品持ってきたから聴いてみよう。

・ヴァンテージジョインオリジナルMMカートリッジに交換

吉野 おー、津軽の寒々しい雰囲気が出てきましたね。演奏に本来あるべき緊張感が出てきた。しかし、さっきからスピーカーの話が出てませんが…。
齋藤 それだけ言うことがないくらい完成してるってことだ。しかし、このカートリッジもいいねえ。

ザ・ビーチ・ボーイズ／Surfer Girl (Capitol 1963年)

高橋竹山／津軽三味線のすべて (ビクター 1971年)

この後もツイーターのコンデンサを変えたりと試聴が続いた

一旦中締め。連載はこれにて終了。アリガトウゴザイマシタ！